

§ 18 点列連続性

p. 85 問 18. 1 (X, d) を距離空間とし, \mathcal{O} を d によって定まる距離位相とする. 位相空間 (X, \mathcal{O}) に於いて X の点列 $\{x_n\}_{n \in \mathbb{N}}$ が点 $x \in X$ に収束する事と実数列 $\{d_n(x, x_n)\}_{n \in \mathbb{N}}$ について $\lim_{n \rightarrow \infty} d(x, x_n) = 0$ が成り立つ事とは同値である事を確かめよ.

解答 x を中心とする開球の全体 $\mathcal{U}_x = \{U_\varepsilon^d(x)\}_{\varepsilon > 0}$ は x に於ける基本近傍系となる事に注意すれば

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} x_n = x &\Leftrightarrow \text{“任意の } \varepsilon > 0 \text{ に対し } x_n \in U_\varepsilon^d(x) \text{ (} n \geq N \text{) となる } N \text{ が存在”} \\ &\Leftrightarrow \text{“任意の } \varepsilon > 0 \text{ に対し } d(x, x_n) < \varepsilon \text{ (} n \geq N \text{) となる } N \text{ が存在”} \\ &\Leftrightarrow \lim_{n \rightarrow \infty} d(x, x_n) = 0. \end{aligned}$$

□

p. 86 問 18. 2 (改題) 集合 X に対し \mathcal{O}_c を

$$A \in \mathcal{O}_c \Leftrightarrow_{\text{def}} A = \emptyset \text{ または } A^c \text{ は高々可算集合}$$

とする. \mathcal{O}_c は X 上の位相となる事を確かめよ.

解答 \aleph_0 より可算濃度を表す.

O₁ 定義より $\emptyset \in \mathcal{O}_c$. また $\#X^c = \#\emptyset = 0$ より $X \in \mathcal{O}_c$ となる.

O₂ $A_1, A_2 \in \mathcal{O}_c$ とする. $\#(A_1 \cup A_2)^c = \#(A_1^c \cup A_2^c) \leq \#A_1^c + \#A_2^c \leq \aleph_0$ より $A_1 \cap A_2 \in \mathcal{O}_c$ である.

O₃ $A_\lambda \in \mathcal{O}_c$ ($\lambda \in \Lambda$) とする. $\lambda_0 \in \Lambda$ を一つ固定する. このとき

$$\left(\bigcup_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda \right)^c = \bigcap_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda^c \subset A_{\lambda_0}^c$$

となるから $\#\left(\bigcup_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda\right)^c \leq \#A_{\lambda_0}^c \leq \aleph_0$. したがって $\bigcup_{\lambda \in \Lambda} A_\lambda \in \mathcal{O}_c$ となる.

以上より \mathcal{O}_c が開集合系の公理を満たし, よって X 上の位相を定める事が確められた.

□

p. 86 問 18. 3 問 18.2 で定義した位相空間 $(\mathbb{R}, \mathcal{O}_c)$ と通常位相を定義した位相空間 $(\mathbb{R}, \mathcal{O})$ は同相ではない事を示せ.

解答 $A = \mathbb{R} - \mathbb{Q}$ (= 無理数の全体) は $(\mathbb{R}, \mathcal{O})$ に於いて開集合ではない. 一方, $(\mathbb{R}, \mathcal{O}_c)$ から $(\mathbb{R}, \mathcal{O})$ への任意の全単射 f について $f^{-1}(A) = \mathbb{R} - f^{-1}(\mathbb{Q})$ は可算集合の補集合だから, $f^{-1}(A)$ は $(\mathbb{R}, \mathcal{O}_c)$ に於ける開集合となるから, f の逆写像は連続になり得ない. 故に $(\mathbb{R}, \mathcal{O}_c)$ から $(\mathbb{R}, \mathcal{O})$ への同相写像は存在しない.

□

p. 88 問 18. 4 (X, \mathcal{O}) を位相空間とする. X の部分集合 A と X の点 x について, $x \in A^\circ$ である為の必要十分条件は (X, \mathcal{O}) に於いて x に収束する A の有向点列が存在する事であることを証明せよ.

解答 x に収束する A の有向点列 $\{x_\alpha\}_{\alpha \in A}$ (A は順序 \leq に関する有向集合) が存在したとする. x の任意の近傍 U に対し $x_\alpha \in U$ ($\alpha \geq \delta$) となる $\delta \in A$ が存在. 特に $U \cap A \neq \emptyset$ が成立. よって $x \in A^\circ$ である.

$x \in A^\circ$ とし, \mathcal{U}_x を x に於ける開近傍系とする. \mathcal{U}_x は包含関係に関し有向集合となる. 各 $V \in \mathcal{U}_x$ に対し $x_V \in V \cap A$ をとれば, 任意の $U \in \mathcal{U}_x$ に対し, $x_W \in U$ ($\forall W \subset U$) となるから, x に収束する有向点列 $\{x_V\}_{V \in \mathcal{U}_x}$ が存在する.

□